

あきたっ子

平成23年 3月 2日

No.112



発行 秋田市PTA連合会 市P連シンボルマーク
編集 総務広報部
事務局 秋田市山王二丁目1-53山王21ビル内
☎866-2248 FAX 866-2252
E-mail:akitapta@cna.ne.jp
http://www.akita-pta.jp/

子どもたちが新世紀の担い手として成長してくれることを願い、「あきたっ子」としました。

平成22年度 勝平小学校の企画事業
「父親の参画による地域教育力活性化事業」

～久しぶりに、父さんと出かけようか～

8月 夏休み校内キャンプ



12月 もちつき 風あげ



10月 自然体験キャンプ



2月 スキー・スノボ教室



一年を振り返って

秋田市PTA連合会

会長 加藤 寿一

連合会の会長を仰せつかり秋田市内はもちろん、県内外の様々なPTAの会合に出席いたしました。その場で必ず言われるのが、「秋田と言えば学力全国ナンバーワンですね」という言葉です。県外の会合に出席すると、まず「○○%」そう声をかけられるか、あるいは会議の席で紹介されます。最初は、その事が率直に嬉しいと思ったものですが、あまりあちこちで言われるものですが、「これは本当に凄いことだ」と同時に「秋田の教育はこれだけ注目されているのだ」と改めて感じた次第です。

県内の小中学生の学力向上の影には学校の力は勿論、家庭や地域での優れた教育力があると言っても過言ではありません。安心して落ち着いて勉強できる環境が、更なる学力向上にいかに重要か、私たちPTAは普段の活動を通して十分知っています。その経験をもとに私たちがしてやれることが、まだまだあるような気がしてなりません。



秋田市立山王中学校

優良PTA文部科学大臣表彰を受けて

山王中学校PTA会長 安宅 信之

この度、大変名誉な「文部科学大臣賞」を本校が受賞できましたことは、長年にわたるPTA会員の方々の地道な活動と、多くの地域の皆様のご支援、ご指導の賜だと心より感謝申し上げます。

さて、本校は今年創立五十七年を迎え、同窓生の数は二万五千人を超す伝統校であり、それだけに今まで多くの地域の方々に子どもたちが支えられてきたことはいまでもありません。

今、子どもたちを取り巻く環境はめまぐるしく変化を遂げています。携帯電話によるメールやインターネット等が大きな要因の一つといえるでしょう。誹謗中傷するメールのやり取り、子どもたちを誘惑し犯罪に誘い込む、いわゆる有害サイト、大人社会のモラル低下も大きな問題となつています。このような時だからこそ、私もPTAではまず保護者が立ち上がり、当面する問題解決に向け、子どもたちの健全育成を図るための対策を講じて、活動に取り組んでおります。PTA会員の皆様



秋田市教育委員会 芳賀教育長に受賞報告
右から 高田山王中校長 安宅山王中会長
芳賀教育長 加藤市P連会長

活動に参画して、子どもたちと正面から向き合い本音で話し合える、コミュニケーションづくりを目指しております。今回の受賞を糧とし、さらに家庭、学校、地域、三位一体となつて同じ目的をもつて「協力し合う関係づくり」「連携し合う体制づくり」に会員一同、心に念じて努めてまいります。

活動の種が大きくのりました



秋田市立勝平中学校

日本PTA会長表彰を受賞して

勝平中学校PTA会長 菅 生 努

この度、日本PTA会長表彰をいただいたことは、身に余る光栄でございます。今年度は秋田市P連副会長として、県P連担当として、様々な会合に出席させていただきました。

私にとっては初めてのことばかりで、すべて有意義なものでした。例えば、教科書の選定・良い本・有害図書選定や、子どもたち・先生方の教育環境改善のために、市教委や県教委との懇談会にも出席させていただきました。こうした活動を通して、一番感じたことは、こんなにも様々なことにPTAが関わっているのかという驚きでした。

そして、このような多くのことに諸先輩方が情熱を注ぎ、長い時間をかけて対話・交渉・思案をしてきたからこそ、現在の秋田県そして日本の教育が成り立っているのだということも改めて感じる事ができました。

時には、週一回以上のペースで職場から休みをいただくこともあり、大変な役目と分かってはいたつもりでもなぜ引き受けてしまったのだろう、と思うこともありました。

そのような時は、加藤会長の「愛してやまない子どもたちのため」という言葉を思い出し、すべては回り回って将来を担う子どものためになっているのだと自分に言い聞かせ、今日まで奮闘して参りました。



受賞の菅生勝平中会長(右)と加藤市P連会長(左)

この受賞を機にさらに自己研鑽に努め、今後「も未来ある「あきたっ子」のために頑張りたい」と思っております。

編集に携わって

初めて「あきたっ子」の編集部員として選ばれ、他校の方々とコミュニケーションをとりながら作成した「あきたっ子」は、今までにないとも思い出深い「あきたっ子」になりました。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

牛島小学校 宮川 忍

秋田市PTA連合会 総務広報部

秋田市山王二丁目1-53 山王21ビル内

TEL 018-866-2248

FAX 018-866-2252

E-mail:akitapta@cna.ne.jp

http://www.akita-pta.jp/

ホームページもご覧ください。

北部地区



上新城中学校

「閉校にあたり」

上新城中学校PTA会長 古木 裕樹

教育立村を掲げるここ上新城地域では、学校と家庭、そして地域が一体となつて子どもたちを慈しみ、守り育てる姿勢が今日に至るまで脈々と受け継がれ、上新城中学校は上新城小学校と共にそのシンボルとして役割を果たしてきました。そして、いきいきと活躍する子どもたちの姿は、過疎化、少子高齢化が進む地域の中で、住民に元気と勇気をあたえ、地域社会に活気をもたらす原動力となってきました。

上新城中学校の最終年度となった平成二十二年度は、歴史に幕を引く役割を引き受けてくれた子どもたちの頑張り以後押しされるようにPTA活動に取り組みました。市P連ブロック再編のため、現行の北部地区では最後となる親睦球技大会予選会では、上新城小学校をはじめ出場各校の協力をいただき、開催校として無事に役目を果たすことができました。

また、上中祭では地域の方々、先生方、そして子どもたちへの感謝の気持ちを含めて、PTA合唱を披露しました。最後の文化祭の成功に一役買うことができ、私たち親にとっても忘れられない思い出となりました。

六十四年の歴史に幕を下ろすことになり、長年慣れ親しんだ本校に対する地域住民の惜別の情はひとしおのことです。しかし、これからも変わることなく上新城の子どもたちの成長を見守り続けるとともに、卒業生が、胸に刻んだ大切な三年間を、生涯の宝物として持ち続けていくことを心から願っています。



校舎



上中祭保護者合唱

スナップ あきたっ子



御野場中学校 10月19日(火)
「オリンピック日本代表高橋大斗選手の教育講演会」
努力し続ける精神と、一つ一つをしっかりと積み重ねる事で自信が付くと言う事を、お話ししてくださいました。



大住小学校 12月1日(水)
「5年生のエコキャンドル作り」
給食の廃油を使用しての作業。思い出のキャンドルができて大成功!!



豊岩小学校 11月26日(金)
「ふるさと教室」
毎年、地域の老人会のみなさんをお招きし、ふるさと教室を開いています。今年は、昔の遊び道具を一緒に作り、その道具を使って遊ぼうということで、「竹ぼっくり」「お手玉」「たこ」の3コースに分かれて楽しく活動しました。



下浜中学校 11月10日(水)
先輩による「ジャズコンサート」
世界で活躍する卒業生の土濃塚隆一郎さんが後輩にフリューゲルホルンを演奏してくださいました。

「秋田市少年指導センター」より お・知・ら・せ

当秋田市少年指導センターは、少年の非行防止及び健全育成のための拠点として、関係機関、団体と連携・協調のもとに「街頭巡回、少年相談、環境浄化活動等」の充実を図るとともに、青少年が自立、責任、連携、寛容などの人間性を養い、社会の規範意識を身に付けるように、地域と一体になった活動を推進する。(運営方針)

それでは、わかくさ相談電話に寄せられた「悩みや相談ごと」の事例を通して、ここ二、三年間にわたる受理件数とその様子を比較しながら、今日の若者の抱えている問題や課題との関連性について、皆様とともに考えてみたいと思う。

平成二十年度は、小・中・高校生をはじめ、不登校、ひきこもりは、三十五・七％と多く、続いて、学校や家庭内でのトラブルが二十八・五％、異性・性の関係が一四・二％、であり、これが三大事例と言える。残りが精神面の一〇・八％とその他一〇・八％である。(図1)

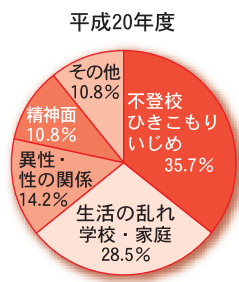


図1

平成二十一年度は、やはりいじめ、不登校が上位に着き、それに学校不信等が加わり二十九％を占めて、つぎに異性・性の関係が二十五％、そして家庭内に関するトラブルが二〇％で、やはり三大事例に関わる相談が多い。(図2)

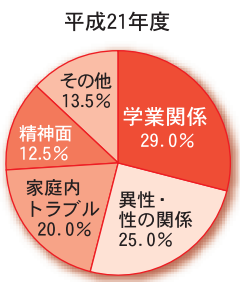


図2

本年二十二年度(但し十一月末現在)は、生活面(情緒不安・精神病理・自殺願望やニート)五十一・九％を占め、次に学校関係のいじめ、部活、進路関係が二十二・二％、そして異性・性の関係十一・一％となり、相談内容

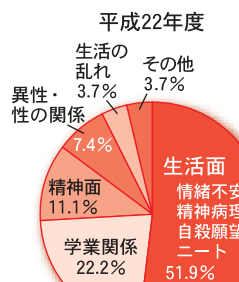


図3

の件数に変化がみられた。(図3)

この三年間の事例類を分析すると、今年度は、生活面に属する、ニートや自殺願望などの相談が多く例年とは異なる傾向にある点に注目したい。前の二年間は、不登校、ひきこもり、いじめが圧倒的に多く、次に、学校・家庭内での生活の乱れと異性・性に関する問題が上位を占めていた。これらのことから、現代の青少年の心情や行動がいかに今日の時代を反映したものであるかが分かる。

相談対象の年齢別件数を見ると、中高生の四十一・八％が最も多く、次に一般成人の四十・六％が続く、各種学校・社会人の一〇・一％、幼少の七・五％となっている。相談者は、九割以上が母親で占め、他の一割は本人、祖父母等であった。また相談者直接の来室も何件かに及んでいる。以

前は、父親不在家庭において、母親が一人で問題を背負い、苦慮しているケースが見られたが、昨今は父親は健在ではあるが、問題への対応力に右往左往する父親像もまた少なくなかった。このように青少年を取り巻く諸問題は、時代の進展とともに、その内容も複雑かつ多岐にわたったり、ネット社会の出現とともに問題の解決を一層困難にしている。

私たち相談員の基本的なスタンスは、「相談内容についての解決策とか解答を相談者に与えることが第一の目的ではない」と言われている。あくまでも相談者の立場に立つて、一緒に悩み、解決策を見つけ出す手伝いに徹することが目的である。

しかし、時には、問題の性質上猶予を許されない場合も飛び込んで来ることもある。例えば「自死」を有する類の悩みなどは、正に悠長に構えていることのできない事例の一つである。

内閣府では、近年の子ども、若者をめぐる環境の悪化への備えや対応等に関して、地方公共団体に対し「子ども・若者支援推進法」(平成二十二年四月一日)施行の下、「子

ども・若者支援地域協議会の設置」に努めることを求めている。この運営指針では、社会生活を円滑に営む上での困難を有する子どもや若者の問題は深刻である。従って単一の機関だけでは困難であり、様々な機関のネットワークを形成し、それぞれの専門性を生かした発達段階に応じた支援を行っていくことが強調されている。

青少年の非行や犯罪をなくすことに努めることは、国民に課せられた努力義務の一つであります。ましてや親であれば最大の努力事項になりま。悩み多き年代の子どもの心に秘めたつばやきや叫びに世の大人はどう応えていくのか。今問われていると

秋田市少年指導センター
わかくさ相談電話
TEL 018(862)3225
月曜日 午前10:00～午後4:00
火曜日～金曜日 午前9:00～午後4:00
随時面接相談可